

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人 アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり<1階>		
所在地	長崎県佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成29年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階では個人作業や運動に力を入れ、個々に合わせたレベルで支援を行っています。毎月さまざまな行事を催したり、苑庭の散歩へ出かけ、自然に触れ合ったりと毎日楽しんで過ごして頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基に、今期は「笑顔できれいな言葉づかい」「職員の健康管理に気を付ける」を、事業所目標としている。接遇マナーや尊厳のあるやさしい言葉遣いや笑顔での対応が、利用者の穏やかな表情に繋がっている。3ユニット連携し、利用者の楽しみを取入れ個別に支援している。外食や買い物ドライブのほか、入浴支援のような日常生活支援など利用者の思いに沿っている。毎月地域清掃や地域幼稚園児との交流、法人介護教室開催など地域交流が盛んであることから地域福祉の拠点であると言え、事業所の大きな強みである。毎月の職員の研修は充実しており、意見が言いやすい環境は、職員のレベルアップに繋がっている。タブレットの導入や業務体系の見直しを行い、利用者に対しゆとりのある支援ができるよう工夫し、実践している事業所である。
--

no		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア中央に、法人理念「笑顔と礼儀」「愛情と真心」を掲示し、理念を共有している。	法人理念を基に、毎年事業所目標を立てている。今期の事業所目標は「笑顔できれいな言葉づかい」「職員の健康管理に気をつける」である。各フロアごとに事業所目標を具現化した項目と事業所理念をリビングに掲示し、職員は理念に沿った支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる公民館祭りに参加したり、インターンシップの受け入れや地域の幼稚園児との交流を図っている。また、職員による地域清掃奉仕活動で、地元との繋がりの強化を図っている。	法人全事業所の職員が、周辺地域の清掃を毎月行っている。また、年1回職員が地域住民にチラシを配布し、併設の系列事業所において介護教室を実施し、地域の信頼を得ている。幼稚園児との年2回の交流の機会や中高生の職場体験の受け入れなど地域との繋がりは深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で協力して介護教室を開催し、講義終了後に質問・相談等を受け、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、状況等について報告している。指摘や助言があった際には、各フロアへ申し送り、改善に取り組んでいる。	会議は、参加メンバーにより規程の回数実施している。事業所の現状報告の後、参加者の質疑応答がある。地域代表の参加者よりヒヤリハットや事故報告の明確な記録方法の提案や、事業所の消防署立会の消防訓練実施の要望があり、提案事項や要望は事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議へ出席していただき、状況報告を行っている。さまざまな対応策や他事業所での取り組みなど、ケアについてのアドバイス等をいただいている。	介護保険の申請などは、市の窓口に出向き相談や連絡等を行っている。急ぎの相談や質問は、電話で問い合わせることもある。市から案内のある研修会には職員が交代で参加し、勉強会で報告を行っている。担当課職員の訪問もあり、協力体制を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束廃止委員会のマニュアルの基、勉強会を行い、職員一人ひとり正しい知識を把握するよう努めている。やむを得ず、拘束する場合は、解除することを前提として御家族の理解・同意をいただいている。	法人に身体拘束廃止委員会があり、事業所は身体拘束をしない介護に取り組んでいる。事例をDVDで学んだり、言葉による拘束について具体的な内容を話し合ったりしている。夜間の転倒防止のベッド柵は、状態把握と家族の同意のもと、解除を前提に使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇研修で利用者の尊厳を学ぶよう努めている。また、事業所の勉強会で動画による実例の基、普段の介護が虐待に繋がっていないか問い直す機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を施設全体で行い、理解に努めている。また、相談機関や対応の仕方など、ポスターで周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書や重要事項説明書を基に説明を行っている。以降、改訂時にはその都度、説明・確認を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に意見箱を設置している。面会時に普段の様子をこまめに伝え、御家族からの要望を聞き易くしている。また、運営推進会議で、運営状況を開示し、御家族からの意見を取り入れている。	家族会や喫茶会をはじめ、行事等に家族が気軽に訪問できるよう取組んでいる。職員は、家族の面会時に声掛けし要望等を聞いており、遠方の家族には、電話や便りで連絡を取り合い信頼関係を築くよう努めている。家族より入居してから利用者の表情が明るく活き活きしていると感謝の声が多くある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議やフロア会議を設けている。その他、意見箱を置いたり、個々に面談を行い、職員の意見反映できるよう取組んでいる。	職員会議や日々の申し送り時に、職員は意見・提案している。管理者との個人面談や職員アンケートも設置し、積極的に意見収集に取り組んでいる。ホームの様子は理事長にも報告し、厨房専門の職員配置など働きやすい環境となっている。設備の交換や備品の購入、希望シフトなど職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのための勉強会を施設全体で行っている。また、処遇改善手当を活用し、より職員の適切な待遇の保持、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	回覧による外部研修の紹介や、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に向けての勉強会参加への声かけを行い、職員のスキルアップの助長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議への参加や、地域包括ケア会議への関わりなど、介護やシステムの新しい情報を取り入れ、活用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に御本人と面談と行ったり生活歴を把握する事で、御本人の要望を伺い、安心した生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に御家族から要望等を伺い、信頼関係作りができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成し、意向の確認や困難と思われる点をそれぞれの立場で出し合い、関係者・専門職の話し合いで、最も必要適切なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたんだり、簡単な縫い物など、個々人でできる事をお願いし、協働して同じ目線での繋がりを深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある時は案内を送り、参加の呼びかけをしている。また、毎月施設広報誌を郵送し、状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友人など、継続して面会に来ていただいたり、馴染みのお店へ買い物へ出かけている。	基本情報や本人・家族との面談からフェイスシートを作成している。日々の会話の中から加筆しており、職員は情報を共有している。家族や友人の訪問は自由で、外出や外泊する利用者もいる。公民館祭や馴染みの店へ友人と出掛けることもある。友人へ手紙を出すなど、職員は家族の協力を得ながら、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業やレクリエーションなど、一緒に参加する事で関わり合い、協力し支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院や退所後の事業所へ面会に訪問し、相談・支援に努めている。 他事業所へ移った方も職員に会いにきたり、安心して話ができる雰囲気 に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの変更・更新毎に、御本人・御家族の意向を確認している。御本人の普段の姿からも楽しみが引き出せるような活動を取り入れるようにしている。	職員は利用者一人ひとりの目を見て、話す早さも個人に合わせることで、思いや意向を把握している。得た情報はケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。言葉を聞き取りにくい時は、耳で話したり筆談で対応している。化粧や身支度など、利用者の日課や体調を優先した暮らしを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係各機関のフェイスシートや情報により、生活歴を把握している。また、御家族から聞き取りを行い、馴染みの暮らしや御本人の望む生活を知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の聞き取りや日々の生活のリズムの把握、アセスメントを活用して、ADLの見極めができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや長谷川式のテスト、また御本人・御家族の意向を把握し、担当者会議を開いている。それぞれの意見を参考に適切なプラン提供に努めている。	支援内容は、本人・家族と介護支援専門員、職員担当者を交えアセスメントを行い、ケアマネジャーが作成しており、家族の同意を得ている。今期、ケア記録・ケアプランチェック表等はタブレットの導入となり、更に補足ノートを活用し職員間で共有している。職員は、本人・家族の意向に沿った支援を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より、電子媒体による支援経過記録の作成を取り入れ、必要な情報が職員間でよりスムーズに取り出せるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々人の要望に応え、仏椀の準備や足湯などを対応している。また、状況に合わせて外泊の送迎や受診の送迎なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域包括ケア会議の開催・参加することで、新しく必要な情報を取得している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人の希望によりかかりつけ医を継続している。また、個々人に合わせ、受診の送迎や往診時の協力を看護職員を中心に行っている。	かかりつけ医の継続受診は、家族の協力に対応している。家族へ説明後、希望に応じ協力病院を紹介している。系列事業所へ毎週1回の往診があり、職員介助で受診している。科目外の受診は、事業所の看護師の同行や家族の協力もある。結果は、家族と事業所で共有しており、夜間緊急時の対応もあり安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル・排泄・皮膚状態・痛みなど、不安な点は毎朝の申し送りにて、看護職員に報告している。緊急でなくても、不安があれば、回診・往診・受診が受けられるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所専用のサマリーを使用し、必要な情報を適切に提供できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、入所時に管理者・介護支援専門員より説明している。介護度が高くなった場合は、改めて意向を確認し、看護職員やかかりつけ医と協力して支援している。	事業所は、契約時に「重度化・看取りの指針」を文書で表明し家族に伝えている。事業所の「重度化の考え方」は、重度化対応に至る段階までの対応を記載し、事業所としてできる支援を伝え同意を得ている。重度化の時点で家族と医師を交話し合いにより、家族の意向に沿った適切な支援を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱いについて勉強会や緊急時の勉強会を行っている。また、救急車での搬送時は、情報提供書を渡すように職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	運営推進会議で消防団の方に消防訓練や自然災害への取り組みについて助言をいただいている。また、定期的に夜間想定避難訓練を行っている。	年2回、夜間想定総合消防訓練を行っている。地区の消防団や住民も参加し、避難誘導も実施しアドバイスを受けている。またAEDの使用法や災害用備品、避難通路のチェックなども実施している。敷地内の他事業所での合同消防署立ち会いの訓練はあるが、事業所独自の消防署立ち会いはこれからである。	災害安全対策の取り組みに、事業所独自の消防署立ち会いの訓練と自然災害に対する避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や虐待、プライバシーの勉強会で、個人の尊厳を大事にした言葉遣いができるように取り組んでいる。	職員は、理念でもある笑顔と礼儀に特に配慮し、利用者の尊厳を守る言葉遣いや接遇に取り組んでいる。新人職員の気になる声掛けには、その都度注意を行っている。個人情報の保管は適切な場所にあり、職員の守秘義務も雇用条件である。家族等から写真掲載の同意書も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人がどうされたいのか希望を伺ったり、自己決定ができるように、声かけをこまめに行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離床の声かけの際、深く入眠されている場合や「後で起きたい」と希望があった時は、時間をおいて離床の声かけをしている。また、食事や入浴も一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床した際に、必ず身だしなみを整えている。また、買い物にお連れした際には御本人の希望している衣服を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、御利用者のみなさまが好むものや、喜びそうな食べ物を提供している。	食事は、法人厨房と連携し、給食委員会が利用者の好みやアレルギーなど伝え、個別に対応する仕組みがある。利用者の咀嚼に合わせた刻みやミキサー食などは職員が行っている。利用者はできる範囲で配膳下膳を手伝っている。外食やおやつドライブ、喫茶会の手作りおやつ、敬老会の出張寿司コーナーなど楽しみごとも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方は、好きな飲み物を提供している。また、飲み込みが苦手な方には、さまざまな味の手作りゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、誤嚥予防や残渣物が口腔中へ残らないように捲綿子で防ぐようにしている。必要な方には、歯科医の口腔ケアを利用して、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	しばらく排泄されていない場合は、時間を見て声かけにより排泄を促している。居室で間に合わない方には、ポータブルトイレをしようすることもある。	トイレでの座位排泄支援である。体調に応じポータブルトイレを使用し、座位を確保している。職員は、排泄表を活用し、利用者の排泄状況を把握し、排泄パターンから支援内容を検討している。パッドの種類やオムツからリハビリパンツなど軽減に向けて取り組んでいる。利用者のトイレ介助が無い場合は、さりげなく状況を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取していただいたり、牛乳や飲むヨーグルトを朝から提供している。腹部マッサージや散歩、運動を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり一人で入りたい方は、昼食前に時間制限なく入れるように支援している。一番風呂を好む方も、他の御利用者との兼ね合いを考慮しながら実施している。	各フロア週2回入浴準備を行っている。体調や入浴拒否で予定日に入浴できなかった場合は、他ユニットで入浴している。浴室は個室で、利用者がひとりゆったりとでき、車椅子利用者も湯船に入るようシャワーチェアや補助具を活用している。菖蒲湯や柚子湯、おしゃべりをするなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢やその方の体力に応じて、休息の時間を作ったり、長く臥床される方は、褥瘡防止などのエアーマットを使用し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量を変更した際は、職員間で確実に申し送り、個人ファイルに処方箋を備え確認している。また、状態の変化について支援・経過を残し、確実に申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いの声かけで張りのある生活を送れるようにしている。また、個々人に合わせ、梅干やパンなどの嗜好品を日常的に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩に出かけたり、計画を立ててドライブや外食へ出掛けたりしている。	体調や天候をみて、散歩しており、車椅子利用者の外出は、特に力を入れている。利用者の希望に応じ買い物やドライブしている他、墓参りや法事は、家族の協力を得ている。季節を感じてもらうための外出を企画し、花見や梨狩り、日帰り旅行等、団体での外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方や、手元に置いておきたいと希望される方は、所持していただいている。買い物や施設にくる移動パン屋などで使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、御本人に電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは自然の風景を楽しむことができ、自然光もよく入る空間になっている。各居室やフロアにエアコンが設置しており、温度調節を行っている。また、毎月の行事に合わせてフロアの飾り付けを行っている。	明るくゆったりしたりリビングは、季節の花や飾り物がある。和室もあり、利用者が馴染みやすい雰囲気である。ソファで寛いだり、文字並べや塗り絵などそれぞれ楽しめる空間である。掃除は、夜勤の職員が、掃除機とモップがけを毎朝行い、定期的にワックス掛けも行っている。職員が、換気や温湿度の調整を行い居心地よく清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で独りになって休まれたり、プライバシーが守れる場所がある。また、フロアにはテーブルやイス、ソファがあり、自由に座ってテレビを観たり、読書をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人の使い慣れたものや御家族からの贈り物を置いて、自宅の部屋のような雰囲気を作っている。	居室は床張り畳の2種類があり、ベッドとクローゼット、洗面台が設置されている。事業所での生活に馴染めるよう、持込みは自由であり、机やタンス、鏡台などの家具や仏壇、加湿器、テレビなどの持込みがある。職員が、居室の整理整頓を支援している。毎朝、職員が掃除や換気を行い、清潔でゆっくり寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のクローゼットを使用して衣類を選んだり、居室内の洗面台で整容を整えたり、御本人ができる事を活かしながら、声や物音が聞こえる近くで見守りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人 アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり<2階>		
所在地	長崎県佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各部屋個室で、9人の少人数居住であることを活かし、自分のペースで自由に生活をしたり、気分によって食事や入浴時間の選択を行えるようサービスを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・事業所目標・フロアー目標を掲示し、共有実践できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館祭りへ参加したり、毎月1回、施設の周辺の清掃活動を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回地域の方々に向けて、介護教室を開催し、支援の窓口となれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し、情報開示や報告を行っている。また、いただいた意見や助言をサービス向上へと活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員である市の担当者や生活福祉課の担当者と日頃から連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に話し合いや勉強会を行っている。やむを得ず拘束する場合は、御家族へ説明・同意をいただき、毎月見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を定期的実施し、日頃から周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改訂時には、料金や今後の方針についても説明を行い、了承を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス担当者会議により、要望などを伺い、ケアプラン変更を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の職員会議や、事業所内での会議、また各フロアでの会議を毎月行い意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士で話し合いをし、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に努め、外部研修後には、さらに内部にて情報・技術の伝達が行えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の要望を予測すると同時に、要望や希望する事項があればできる範囲で応えるよう努めている。また、御本人が発言しやすい関係を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に御本人の状況を伝えたり、御家族と外出した際には、その時の様子や気になる点をお聞きし、連絡交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の日々の生活をよく観察し、その時々々の身体状況や精神状況を理解した上で、臨機応変な対応を心掛けている。また、定期的にフロア会議を行い、その都度御本人の現在の状況とサービス内容が適切か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の業務の中で、御利用者個人の人格を認め、人生の先輩として尊敬の念をおいた上で、コミュニケーションを一人ひとりをとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と御本人の関係性を理解した上で、密接な連絡交換を行うようにしている。施設内行事には、御家族も参加できるようにし、御本人と関わることができる場を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話やレクリエーション、御家族の話等を通して、御本人の過去の情報をし、御本人の大切にしている事や楽しいと思える事を尊重した支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ空間で御利用者一人ひとりが快く過ごせるように、トラブル等が起こらない努力をし、様子を見ながら職員が関係性を取り繕っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もさまざまな行事等の参加の声かけや、御家族からの相談等があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日常の様子から汲み取ったり、把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や御本人からお聞きし、具体的な情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を大事にし、御本人のできる事を維持向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族・御本人・介護支援専門員・フロアー担当者を交え、アセスメントを行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に身体的状況や食事、排泄等を記入し、申し送りで情報を共有しながら、実践やケアの内容の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り御本人の要望に応じ、御自宅や病院等の送迎対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の協力員の方との交流を持ち、豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族が希望するかかりつけ医を継続支援し、適切な受診を進めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、状態管理を行い、気付いた点や異常があった場合は、適時に報告・相談を行い、看護職員との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、病院や御家族と情報交換をし、早期退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態把握により、早い時点で御家族へ意向確認を行い、できる限り支援が行えるよう説明・話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加や応急時の対応について、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域消防団に協力していただき、自然災害や火災を想定しての避難訓練を定期的に行ったり、勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った支援の必要量に気を付け、特に排泄や入浴、自室での過ごし方にプライバシーを重視した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者に合わせてコミュニケーション方法を行い、自己決定ができるよう支援している。行動や表情からも希望を読みとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせて、自分のペースで生活できるよう、言葉かけ支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って理美容サービス利用を提供している。各行事などでは、おしゃれをして出掛ける楽しみを作るよう図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器の片付け、季節の山菜の下処理など、職員が教わりながら一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスの摂れた食事の提供や、御本人の好む補食の提供を行っている。必要な方は、飲水量のチェックも行い、水分確保に努める。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、必要な方は介助を行っている。歯科の口腔ケアサービスも定期的に利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎時の記録を取り、確認しながらトイレにて排泄していただくよう促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職員の指導により、下剤コントロールを行い、飲水を促し、飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外出や拒否があり、入浴が実施できなかったときは、意向を聞きながら、翌日以降に入浴を行えるよう調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後に声かけをし、臥床希望等があれば居室へ戻り、臥床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員で管理し、飲ませ忘れや誤薬がないように努め、症状の変化の確認にも気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操やレクリエーションなど毎日提供し、また個別の好みを活かした縫い物や工作などのレクリエーションを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、職員と出掛けられるよう調整している。また、御家族の協力も得て、定期的に外出されている方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族から預かっているお金は、買い物や理美容サービスを利用する際に自由に使用でき、能力に応じ、御本人にてお支払をお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用補助や、御家族や御友人への連絡を取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた音楽を流したり、花や飾り物を置いている。毎日清掃に努め、居心地の良い空間となるよう気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置したり、和室で足を伸ばし寛げるよう空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや家具なども持参され、暮らしやすい部屋となるよう工夫している。工作やバースデーカードを壁に飾り、殺風景にならないよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて、ベッド柵やポータブルトイレを使用している。トイレを分かりやすく表示したり、表札をつけ工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人 アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり<3F>		
所在地	長崎県佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「楽しく・美味しく・健康で活気ある生活が送れるようにする」 フロアー目標を立て、一年間職員と一緒に過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに掲示している施設理念「笑顔と礼儀」「愛情と真心」を日々サービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の公民館祭りに御利用者と一緒に参加したり、職場体験の受け入れや幼稚園児との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回、介護教室を開催し、事業所の力を活かした地域貢献ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所での出来事を報告し、意見や助言をサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の長寿社会課や生活福祉課の担当者と日頃より連絡を取り、分からないことは相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に勉強会や報告を行なっている。当事業所でもフロアー会議や介護会議などの勉強会を開き、全員が身体拘束をしないことを理解し徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から勉強会を開き、言葉かけや対応に気をつけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加したり、毎月事業所での介護会議での勉強会を通して、各自スキルアップに繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時や改訂があった際、随時御家族に説明を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、家族会や面会時に意見・要望などを聞き、反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全事業所の会議や介護会議の際、意見を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を考慮し、勤務作成をしている。勤務時間内に業務ができるよう協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加して、一人ひとりのスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回開かれる同業者との交流会へ参加し、情報交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	悩み事など相談を受け、本人が不安にならないよう安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に話を伺い、御家族と協力し合えるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議の中で、御本人・御家族の意向を聞き、何が必要なのかを話し、よりよいサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、できる事や得意なことを共にし、協力し関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、御家族に御本人の状況報告を行っている。また、要望があれば伝え、介護計画にも反映させている。御家族との外出支援も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援で御本人の馴染みの場所を訪れたり、他事業所利用中の馴染みの方との交流の機会を設け、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の関係を把握し、職員間で情報を共有している。レクリエーション等で利用者同士のコミュニケーションを図り、座席にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、他事業所へ面会に行くなど、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意思に副えるように買い物や散歩、レクリエーション等を実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族・御本人から生活歴を聞きながら、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を大事にし、御本人にあった生活リズムができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族面会時に希望を伺い、反映するようにしている。フロア会議でも職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日状態把握に努め、記録を残し、申し送り等で情報を共有し、介護計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の要望に応じ、買い物や病院送迎等の必要な状況に合わせて対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の方と交流し、安心して生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度回診を受け、医療連携を図っている。他科受診の場合は御家族の協力も得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があれば看護職員へ報告している。不在時は、同法人の特養の看護職員へ応援をお願いし、適切な対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関には、常に御利用者の状態についての情報提供を行い、入院中は面会に出向き、情報交換や早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状に応じて御本人の希望や御家族の希望を伺い、カンファレンスを行い、御本人の希望に副えるように支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、初期対応の訓練や研修などを定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域との協力体制を取り、応援をお願いし、年1回夜間想定消防訓練を行っている。自然災害についても、消防団の方より助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて勉強会をするなど、個人を尊重し、日頃の対応にも気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら言葉を発することが少ない方に対して、表情に注意したり、言葉がけを行い、できる限り自己決定が行なえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースに合わせ、好きなように過ごしていただけるよう声かけを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	準備等は介助を行い、御本人の好みに副えるようその都度確認している。希望時は買い物介助も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事やおやつを一緒に作ったり、片づけを一緒に行い、食事やおやつを楽しめるように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に水分摂取の声かけを提供し、水分量の少ない方へは水分チェックを行い、不足しないよう心掛けている。食事量等もチェックを行い、不足時補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品の準備を行い、自力でできない方は介助を行い、毎食時口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意、排泄の感覚やパターン等の把握に努め、トイレでの排泄ができるよう自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただいたり、フロアー歩行をするなど常に気がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週火曜日と金曜日が入浴となっているが、入浴拒否や体調不良のため、入浴ができない場合は他の階で入浴ができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムに合わせて、休んでいただいている。希望があれば湿度や温度に気をつけながら湯たんぽ等に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された場合は、申し送りにて把握するよう努めている。眠剤などは特に変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じて、日めくりカレンダーや家事手伝い、花生けなど、役割を持てるよう支援し、レクリエーションや散歩、外出、行事を行い、気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物ドライブや花見などを計画し、外出している。個別の支援も行っているが、御家族の協力も得ながら外出される場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方には所持していただいている。困難な方は事務所にて管理し、買い物の時に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人より電話の希望があった場合は、電話の支援を行っている。また、年賀状を準備し、手紙の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間を活かし、季節をより身近に感じられるよう季節の花を飾ったりディスプレイしている。フローアが高い位置にあるため外の景色が良く、明るさにも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア内にて、食事をする席とは別にテレビ前にソファ、陽当たりの良いベランダ側にはベンチ椅子を設置し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使い慣れた家具を設置したり、自分で作成したものやプレゼントでいただいたものなどを飾るなど、御本人が居心地よく安心して過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人のレベルに合わせて、居室・フローア内で安心した生活ができるよう、物の表示を工夫している。		